

## 問答形式による、「最終版」作成に向けての重要論点整理

### ④「記紀神話（神代）」は、単なる「創作話（お伽話 or ファンタジー?）」ではない?!

I:だから、荒唐無稽で、神秘的な話として、言い換えれば、誰もが否定（反発?）出来ないような形で、「記紀神話（神代）」を創出し、自分達の「(創られた?) 正当性・正統性」を、その物語（「万世一系の皇統譜」）に託すことにした?!とりわけ「高天原神話」とは、そういうものであった?!

D:まさしく、そういうことであつたらうと思います!ただし、それらは、単なる「創作話（お伽話 or ファンタジー?）」ではなく、あくまでも史実に基づくものとした?!何故なら、まったくの作り話では話になりませんからね?!そこに、何らかの、現政権の正統性（正当性はともかく?）の淵源があつたわけですからね?!

I:そして、そこには、当時の関係氏族・勢力との関係、さらには、その関係氏族・勢力の言い伝えや言い分が採用され、それらが、互いに都合よく再構成（借用?）された?そういうことでもある?!

D:そうです!そうでないと、あのような壮大な歴史物語?は創れないということにもなります?!とにかく、題材が必要であつた!しかし、自分達には、それが直接なかつた!だから、話のネタは、すべて他からもってきた?あるいは、どこかの地域・氏族の書き物、言い伝え等を利用した（例の『風土記』は、そのための情報収集集でもあつた!）?!驚くなかれ?、『旧約聖書』も活用されたのです（←景教/唐に伝わっていたネストリウス派キリスト教?!その意味で、物凄い情報収集と創作意欲、そして文才?だったとも言えますね?!

I:利用できるものは、すべて利用した?そういうことですね?

D:そうとも言えますが、一方で、その利用については、それらをもたらした氏族・勢力の意向（思惑?）もあつたのではないか?例えば、聖書の活用は「秦氏」から（秦氏は、ユダヤ系氏族の末裔だった?）?!

I:いずれにしても、「人代（神武以降）」はともかく、そうした「神話（神代）」に託されたものは、ある意味史実であつた?そういうことですよ?

D:もちろんです!ただし、繰り返すように、それは、あくまでも都合のいい史実?の寄せ集めとも言えるものであり、全体を通しての史実?ではないと思います!だから、そのすべてが真実だと思つてはいけません!しかし、その全てを否定してもいけません!まさに、そういうことになるでしょう!したがって、例えば「天孫降臨」などは、その物語が史実?（←科学的?）であるかどうかということよりも、そこに示されているものが何かという、その解説（裏読み?）の内容が問われるということにもなります?!

I:つまり、そうした解説（裏読み?）は、その「物語」が、どのような史実?を投影しているのか?そこをきちんと突き止めているのかどうか?そこが、改めて問われるということですよ?!

D:そういうことです!そこで、今、一つのひらめきと言いますか、その神話（物語）の所有者（発信者?）ということで、例えば「天孫降臨」の話は、北方系の太陽信仰、「海幸山幸」の物語は、逆に南方系の説話とか言われていますが、一つの解決策として、それらを、どのような氏族（勢力）がもたらしたのか?それを辿っていくと、その氏族（勢力）が、どこからのそれか分かるのではないか?そのようにも思っているのです!

I:具体的には、どういうことになりますか?

D:そう言われても、まだまだ類推の域を超えませんが、前者は、伽耶（金官伽耶）あるいは扶余・百済系、後者は、多分?「鴨（加茂）族」のそれだったのではないか?そのように考えてはいますが?!

I:ということは、当然?前者は「北方系」、後者は「南方系」だったということになりますね?

D:もちろん、そう単純には言えないのかもしれませんが、私は、今のところ、その「鴨（加茂）族」の頭領?「タケツヌミノミコト」が「神武」のモデルであり、彼らの勢力が、吉備を経由して、近畿・大和に進出（移住?）していった?そして、その仲介者（仲間?）が、瀬戸内海の航海民（海人族）であつた「塩土翁（珍彦）→倭直」であつたと睨んでいるのです（「神武東征」の元ネタ?）!多分?彼らは、「大山積命」（愛媛県大三島→大山祇神社）を祭神とする勢力であつた?!

I:そう言えば、彼らは、確か静岡県の「三島大社」にも、その根拠地を有していますよね?そしてまた、「安曇あづみ」とか「志賀しが」、あるいは「那珂なかが」というような地名を各地に残しているのは、そうした航海民（海人族）の移動・活動の痕跡?とも言えますよね?!

D:そうですね!おそらく彼らは、随分と早く（弥生時代中期以降?）、黒潮に乗って関東地方にまでも進出してたようです（←神津島の「黒曜石」の採取・分配!）?!大きくは、鉱物資源（黒曜石、朱、銅、そして鉄?）を求めた人々（「山地民」と、それらを運ぶ「交易民」（「海人族」）が、大きなネットワークをつくりながら、先住の農耕民（南方系倭人→安曇族→環濠集落勢力→銅鐸・巴形銅器勢力）と、ある時は協力、ある時は衝突を繰り返しながら、勢力（影響力）を拡大していった?!その一つの大きなエポック（大事件）が、いわゆる「倭国大乱」（2世紀末）ということでしょう?!だから、その「倭国大乱」のことが、もう少し詳しく分らなければいけないのです?「卑弥呼・邪馬台国所在地論争」だけでは、ある意味?何も進んでいかないのです?!